

Ⅲ 昭和三十年代

所得倍増へ猛ダッシュ

―技術革新から長期繁栄へ―

昭和三十年には保守大合同が成立し、いわゆる五十五年体制がスタートした。

日本経済は成長と近代化の時代を迎えた。鉄鋼、化学、電機などの産業分野には技術導入が活発に行われ、設備投資が積極化し、「技術革新時代」といわれ、わが国の経済を完全に復活させた。昭和二十九年十一月から三十二年までの三十一カ月にわたる「神武景気」と呼ばれる好景気は、年率十二%という高度成長ぶりを示した。この好景気は消費ブームを引き起こし、生活の質の指標である「エンゲル係数」が低下し始めた。

一方、わが国の人口動態は都市への人口移動が急

速に進み、団地が建設されるようになった。また、核家族化が進み、乳児の死亡率が激減した。

昭和三十三年下期から一年はナベ底不況に見舞われたが、短期間に回復して岩戸景気（昭和三十三年下期～三十六年下期）にわき、息の長い繁栄となった。さらに政治の混乱はあったが、所得倍増計画により社会基盤の道路・港湾・鉄道等の整備、通信設備や農林水産業の近代化が推進され、オリンピック景気にわいた。しかし高度経済成長は公害問題をはじめ労働力の不足、都市への人口移動による地方の過疎化、大企業と中小企業の格差が生じた。国民生活は電気洗濯機、冷蔵庫、テレビの「三種の神器」からカラーテレビ、クーラー、カーの「三C時代」となった。

科学技術振興と道德教育

昭和30年（55年体制のスタートと繁栄の始まり）

「55年体制」の始まり

10月に左右両派に分かれていた社会党が統一し「日本社会党」結成、委員長鈴木茂三郎、書記長浅沼稻次郎。11月には、自由党と日本民主党の保守政党が合同し、自由民主党（総裁鳩山一郎）が結成され、保守安定勢力を築き、平成5年8月まで継続される

☆小学校は「カタカナより先に、ひらがなを習う」

☆東京通信工業（現ソニー）からトランジスタの小型ポータブルラジオ発売

III 昭和三十年代

昭和31年（日本経済の成長と近代化の時代）

もはや戦後ではない
流行語にもなった経済白書は「われわれはいまや異なった事態に当面しようとしている。回復を通じて成長の時代は終わる。今後の成長は近代化によって支えられる。そして近代化の進歩も速やかにして安定的な経済の成長によって初めて可能になるのである」と

国際連合に加盟

12月に国連総会は全会一致で、日本の加盟を承認。日本は敗戦直後から国連加盟を申請、ソ連の反対で退けられたが、日ソ国交回復によって、国際政治の一員になる

☆オリンピック

◎冬期オリンピック（コルチナ）で猪谷千春がスキー回転競技で銀メダル
◎第16回オリンピック（メルボルン）で体操の小野喬ら4人が金メダル

昭和三十二（一九五六）年、政府は経済界の声に応じて、科学振興と国民道義の確立を期し文教の刷新を構すべきことを強調し、新教育は大きな転換期に入った。米ソ二大国の科学技術の進歩は宇宙への道を開き、欧米諸国からの技術導入が活発に行われ、技術革新時代といわれていた。

中教審は同年十一月「科学振興策」について答申した。また、文部省は歴代文相が努力したが実現するに至らなかった「道德教育の独立」に踏み切り、昭和三十三年四月から学校教育全体の計画の下に道德教育を一貫して行うこととし、これを期して、指導要領の全面改訂に乗り出した。

同年三月、教育課程審議会は「小・中学校の教育課程の改善について」答申した。その要旨は、中学校においては道德教育の徹底、基礎学力充実、科学技術教育の向上、地理、歴史教育の改善・充実など、他、中学校の第三学年の教科の時間数に幅をもたせ、生徒の進路特性による指導を十分に行うことなどであった。この改訂指導要領は昭和三十七年度から実施された。

この指導要領改訂に対しては、教育の国家統制の点が強く出ているなどの理由で、日教組をはじめ多くの団体が強く反対した。

これに先立ち文部省は、昭和三十一年から全国一斉学力テストを実施した。市川市の児童の学力は県内はもちろん全国でも高い水準であった。この後も昭和三十六年から義務教育の学力基礎資料を得るため小・中学校全領域における学力テストが教組の反対運動の中、行われた。

さらに、この時期はベビーブームの波と流れが、所得の上昇に支えられて進学率を押し上げ、学校教育の発展を促した。市川では小学校の新設（鬼高小・稲荷木小・菅野小）、中学校の新設（行徳・南行徳中の合併による六中と七中の新設）など学校数の増加が著しく、昭和三十七年には、高校全入

運動が盛り上がりを見せ、公立高校の増設を県に要求している。

教科書

文部省による新教科書と検定教科書

六・三制の発足に当たって、GHQでは国定教科書の制度を廃止し、民間で編集したものの中から各学校が適切な教科書を選択できる民主的な教科書政策を決定していた。それは、すべて民間の出版社で編集される、いわゆる検定教科書である。検定教科書は文部省が作成した「学習指導要領」に準拠して作成され文部省の検定に合格したものである。

学習指導要領の趣旨は、当初これまでの教師用書のように、動かすことのできない一つの道を決めて学習指導をするのではなく、新しく児童と社会の要求によって生まれた教科課程をどのように生かすかを教師自身が研究するための手引き書で、いわば、学習の筋書きを立てたものであると書かれていた。文部省はこれに即した教科書を作って全国に供給しなければならなかった。

しかし、六・三制の出版に際し、この制度で教科書を供給するのは時間的に無理なので、一応、文部省が急いで教科書を編集して間に合わせ、できるだけ早く民間編集の教科書を検定して供給する方針をとった。こうして終戦後における最初の新教科書は、文部省で編集されたものが刊行されたのである。

この戦後の文部省・新教科書は、全学年、すべてを揃えることができなかったばかりか、用紙不足や印刷困難などの悪い条件のもとで刊行されたこともあり暫定的な性質をもつ粗末な教科書が多かった。しかし、児童生徒の生活経験をもとに興味をひくように作られなければならないとの基本方針があったので、それまでの国定教科書とは随分違ったものであった。二中では、一期生から三期生の間で使用された。ただし、二十四年の一期生の英語と音楽は検定教科書が使用されたがこの年の一年生



昭和30年代後半の国語教科書

『中学校国語 三上』 昭和三十六年 十三期生使用
「季節をうたう」 序詞「時は春、日は朝、朝は七時、
片岡に露みちて」ブラウニング、上田敏訳。
①「峠の茶屋」空が怪しくなってきた。「おい。」と声
をかけたが返事がない。「夏目漱石の初期の作品「草枕」
の一部である。

「古典入門」 「愛する国語のふるさと、古典の門をた
たこう。」との前置きがある。
①「天のかぐ山」 「春過ぎて夏きたるらし」など万葉集
のよく知られた短歌八首について佐々木信綱が解説し
たものである。中でも山上憶良の「銀も金も玉も何せ
むにまされる宝子にしかめやも」は印象的な歌である。

昭和三十年代後半に使用された教科書

十三期生が三十四年から三十七年の間に使用した学校図書発行の『中学校国語 一上』から『中学校国語 三下』の六冊がある。外装はA5判で、一冊平均二二八ページ、表紙は一、二、三が各黄色、薄茶、薄青で、右下に三色刷りの絵があった。単元、学習の目標を示す文は同じであるが、本文に続いて付録、一、二の巻には課外読物を設けていた。付録には各巻で学習した事柄に関連した文法に関する表、各種評価表、漢字表、国文学史略表などがある。

を裏によく描いている。なお、この文章は昭和五十九年、教育出版『改訂 中等国語 1』にも掲載されているので、三十八期前後の卒業生にも記憶のある人もいるであろう。後半の「良平の心の動き」は本文「トロッコ」の幼い子供の心の動きを時間とともにたどりながら文章の表現を分析したもので、本文を理解するうえで大変参考になる文章である。
②「安寿と厨子王」 森鷗外の短編「山椒太夫」の前半の概略を述べ、後半の本文を掲載したものである。説経節、浄瑠璃の形で伝承されていた「山椒太夫」伝説

を基に大正四年に発表された作品で、安寿と厨子王の姉弟愛と、守り本尊による霊験を情感豊かに描いたものである。
③ ユーモア 「江戸の笑い話（三編）」と共に「ねこの踊り」がある。夏目漱石の名作「我輩は猫である」の一節で、「外国では、ユーモアの味が本当に分かるというところが、教養のある人の一つの資格に数えられているそうだ。人に明るい笑いと、潤いを与えてくれるユーモアの味を身につけたいものだ。」という前文に続いて本文がある。

III 昭和三十年代



昭和30年代前半の国語教科書

昭和三十年代前半に使用された教科書
二中で八期生が昭和二十九年から三十二年の間に使用した、三省堂の『中等国語 一上・下（改訂版）』から『中等国語 三上・下（三訂版）』の六冊がある。この教科書は二十六年の学習指導要領に準拠して作成された。外装は他の国語教科書と同様にA5判で、一冊平均二三五ページ、表紙は色刷り厚紙である。
初めに「この教科書を使うみなさんへ」という緒言があり、その中でこの教科書は文学と言語とを一つにまとめて、自習できるように工夫してあることなどが述べられている。次に「どんなことを勉強するか」という単元ごとの目標を設定、一冊を六つの単元に分け、各単元はさらに二、四くらいに分けてある。目次、本文に続いて最後に「注意すべきことは」、「ことばのはたらきの一覧表」、「学習する事ごらの一覧表」、「教材の原典ならびに原作者の一览表」などが付けられている。これは文部省著作の教科書と大きく異なる点である。
次はこれらの国語教科書の内容の一部である。

『中等国語 一上』 昭和二十九年 八期生使用
「文の味わい方」 「心をとめて見ると、今まで見逃していたものの中から、美しいもの、すばらしいものが発見できるので、文学の世界でも同じことである。優れた人々の文章は、読み返すことによって本当の面白さが分かってくるものである」という導入文の後に

①「トロッコ」 芥川龍之介の有名な小品を掲げ、後半にその鑑賞文を載せている。この短編は「小田原・熱海間に軽便鉄道敷設の工事が始まったのは、良平の八つの年だった。良平は毎日、村はずれへ、その工事を見物に行った。」という書き出しで始まり、大正十一年に雑誌「大観」に発表された短編で、幼い子供の心理

昭和32年（神武景気の終焉からナベ底不況へ）
人工衛星打ち上げ成功
10月にソ連が世界初の人工衛星打ち上げに成功
☆東海村の原子炉が臨界点に達した「第三の火」
☆第5回カナダカップゴルフで中村寅吉優勝ゴルフブームのきっかけ

が使用した国語教科書は、一期生と同じ文部省の『中等国語 1』であった。翌二十五年以降はすべて検定教科書が使われるようになった。

昭和33年(岩戸景気で再び高度成長)

岩戸景気到来 秋に景気は上昇
「ナベ底不況」が長引くことが予想されたが、一二か月で終わり、秋になると景気はつきりと上昇に転じた

宇宙戦争開始
1月に米が人工衛星の打ち上げに成功、いよいよ宇宙戦争が開始された

交通網の整備
3月に下関―門司間の海底トンネル開通、本土と九州が結ばれる

☆狩野川台風(22号台風) 真間川が氾濫。県下初の災害救助法が適用される

昭和34年(皇太子結婚がもたらした耐久消費財ブーム)

皇太子の御結婚
4月10日皇太子(平成天皇)の御結婚パレードテレビ放映、カラー・テレビが爆発的に売れる

☆伊勢湾台風で、名古屋市中心に東海地方大被害

☆昭和基地に前年に放置されていたカラフト犬15頭のうち、タローとジローが生存、動物虐待の非難消える

②「紫式部と清少納言」 同名の教課が三省堂『中等国語 三上』にあったが、こちらは池田亀鑑の文章。「紫式部は源氏物語の中にいつの世にも変わりない、深い感動の世界を表現しようとしている。」と述べ、次に清少納言について「枕草子の中には、作者の性格そのまの『知性』というものの明るさを表現している。」と説明している。

「外国の文学」

①「銀の燭台」 ビクトル・ユゴーの「レ・ミゼラブル」の一節で、豊島与志雄の訳。一期生は水野葉舟訳で、八期生は久米正雄脚色の脚本で学習した。

②「青い鳥」 メーテルリンク作、楠山正雄訳に編集委員が書き直した戯曲がある。これも文部省著作『初等

教育の場における平等論

五十年史編集に際し八期生有志が寺島先生から当時の様子を伺った。
その趣旨は次の様なものであった。

新制中学は生徒の素質を十分に伸ばしきれないのではないかと危惧を抱いていた先生は、二中が昭和二十四年に須和田が丘に独立し中学校の体裁を整えた頃、三月の職員会議で「能力差に応じた教育はどうあるべきか」について提案した。

憲法のもとの平等の理念から問題であるとの反論があった。しかし、「憲法という平等の理念は、算術的平等と分配的平等の二つの観点から解釈しなければならない」と主張した。夜九時過ぎまでかかって結論が出ず、翌日も会議を行った。最終的にはかけ算の九九もままならない学業の遅れた十余名のために、専任の先生が

科国語八に「幸福の園」という題名で載せられている。

③「わが愛する母に」 三人のドイツ詩人の詩が各一編ずつある。

「山のあなた」「山のあなたの空遠く、幸、住むと人のいう」ブッセの詩で、序詩「春の朝」と共に上田敏の訳詩集『海潮音』にある詩。訳詩集の中でも最も世に知られた一つである。「わが愛する母に」「お話しすることがたくさんありました」ヘッセ作、片山敏彦訳。「魔王」「この夜更けの闇をおかし、風について急ぐのは、ゲーテの詩で、シュベルトが作曲し、歌曲として有名である。



昭和33年頃の授業風景

つけられるならという事になった。翌日、高山校長と県庁へ出掛けた。存じあげていた当時の公選制による教育委員の一人(長戸路氏)に趣旨を話し直接頼み込んだところ「それは面白い発想だ。教員増はわかった。」と言われ、千葉県で最初の特設学級が発足するきっかけとなった。教育委員の一人の意見で教員一名増が了承された当時の事情は、今では想像もできない。

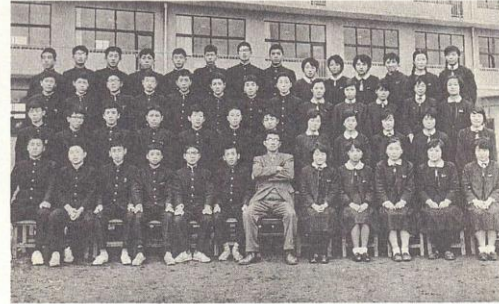
一方、一般の生徒についても能力別学習を行った。五期生(二十九年卒)や八期生(三十二年卒)に、二年生から行った希望別の組編成(英、数、理)の授業は、「可能性を最大限に伸ばす教育」の実践例である。この編成に対し、基礎コース、普通コースを選んだ生徒の九割以上、応用コースを選んだ生徒の七割以上が賛成であった。学習の進んでいる生徒には退屈せずにさらに進んだことを学べるように、遅れている生徒にとっては早く追いつけるようにという意図であった。全課目について行くと学級という単位がなくなってしまうので、初めは理科、英語と数学について行った。後には英語と数学の時だけ学級の半分ずつが入れ替わって授業を受けるように時間割を組んだ。教材は同じで、教え方を変えるという教師にとっても大変な事であったが成果は上がった。

昭和35年（政治の混乱と所得倍増計画）

日米安保条約事件

1月に日米安全保障条約が改正・調印、4月に入り、安保国民共闘の統一行動が行われ、全学連デモ隊が国会突入を図り、警官隊と衝突。自民党は日米新安保条約を単独強行採決、日本中が安保騒動の渦に巻き込まれたが6月23日発効

Ⅲ 昭和三十年代



女子の制服（昭和37年、13期生）

文部省では昭和三十年代後半から『能力適正に応じた教育』、五十年代には『習熟度別授業』を提唱しているが、二中では文部省が提唱するずっと以前に新しい教育法を実践していたことになる。

（八期 福田昭 ほか四人）

制服について

女子の制服はいつ頃出来たのかと思って、卒業アルバムを調べて見ました。第九回（三十三年三月）卒業生はセーラー服と私服、第十一回（三十五年三月）卒業生は、ほとんどが制服、その中にちらほらセーラー服等が見られます。第十三回入学式（三十四年四月）においては、全員が今の制服で臨みました。それから考えると、三十三年に決まり、三十四年の第十三回生から着用されたと思われるます。

当時の先生にお話を伺いましたら、制服については、保護者の方達の意向も強く、金子先生が中心となられて、制服委員会が作られ今のポロロ風の制服に決まった様です。その頃は、「かわいらしい」という評判だったそうです。平成元年の「PTA会報」によりますと、六所神社近くにお住まいの堀口さんが国府台女子学院の制服をモデルに型をおこした作品が採用され、伊藤被服が縫製から販売まで手掛けていたそうです。

戦後五十年を経て、当時では考えられない様な文化となっています。あと五十年も過ぎた頃、二中に制服が残っているかどうかと考えると、制服を着た子供達がかわいく、清潔に見えます。

小学校を卒業した新一年生が制服を着て、急に大人びて見えるものほほえましく思います。夏は暑く、きゅうくつだと、いろいろマイナス面も有りますが、制服も又、捨て難いものです。尚、PTAにおいては、着用しなくなった制服を譲り受け、年二回入学式の頃と須和田祭の時に安価で販売しております。

（十三期 本間真喜子 現中村）



菅野小学校 水泳教室（昭和35年）

水泳指導開始

昭和三十四年七月、体育の授業で水泳指導を開始した。もちろん、二中にはプールがないために菅野小学校の施設を借りて行うことにした。二中独自のプールでの授業は昭和五十六年の屋上プールの完成を待たなければならなかった。

七月下旬には県民水泳大会が、九月には水泳競技会が催された。以後、毎年、夏にはこうした大会が行われ、後年は中学生日本新などを記録する生徒も出てきた。

水の事故とプール

学校にプールがなかった時代、水泳を覚えるのは川や池だった。学校より東寄りの人は菅野の大池で、西寄りの人は江戸川で泳いだ人が多いという。川も池も危険だから親には内緒だった。泳げるようになるまで

が特に危険がいっぱいだった。当時、毎夏に水の事故があった。二中でも数人で大池に遊びにいった一年生のうち男子一名が水死するという事故があった。

（七期生）

第一次ベビーブーム世代の入学

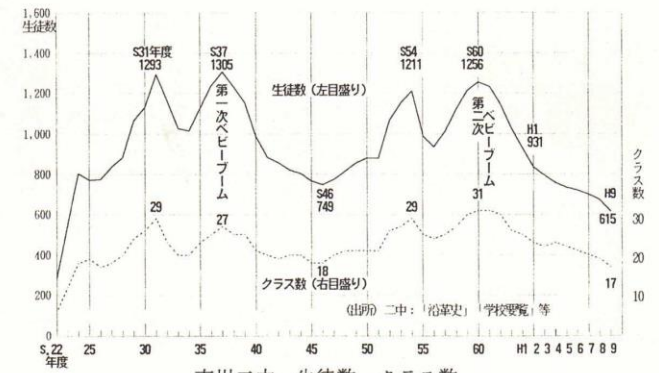
クラスの呼称変更

戦後の混乱期を脱しやや落ち着きを取り戻した昭和二十二年頃から旧軍人の復員などもあり出生数が急増した。この現象は二十四年位までつづき年間の出生数は二百七十万人に達した。いわゆる第一次ベビーブームである。この世代は後に団塊の世代と言われ社会的にも大きなインパクトを与える存在になった。三十年代中頃にこの世代が中学学齢期を迎えた。

二中でも三十五年から生徒が急増し、三十六年は千二百三十八名、二十五クラス、三十七年の千三百五十五名は五十年の歴史の中でピークを示し、クラス数は学級定員の関係で第二次ベビーブームにピー

所得倍増計画
12月、第二次池田内閣は、「国民所得倍増計画」を政策決定。その内容は「10年間で国民総生産（GNP）を13兆から26兆に倍増。国民一人当たり所得を、10年後に20万8千円とし（33年価格で計算）西ドイツとイタリアの中間レベルに置く」というもの。

☆ソニー、トランジスタテレビ発売
☆チリ沖地震で津波が太平洋沿岸に襲来し、三陸地方に大被害
☆テレビ受信台数が500万台突破し、テレビ各局がカラー放送開始



市川二中 生徒数、クラス数

クを譲るがそれでも二十七クラスに達し、教室不足などさまざまな問題を投げかけた。クラスの呼称が変わったのもその一つと思われる。各学年とも八クラスを超え、十クラスの学年も出そうな状況で、創立以来使われていたA組、B組、C組というアルファベットでは対応しきれなくなったようである。三十六年に単純な数字に変わり、一年生は1組～8組、二年生は1組～9組、三年生は1組～8組となったのである。以後、現在でもこの呼称が使われている。

ミルク給食開始

戦後の学校給食は貧困から子供の生命を守るために昭和二十二年から全国の小中学校で導入された。その後、二十九年に学校給食法が公布され本格化する。

市川市における中学校の給食は、小学校の完全給食化が完了した三十八年度に、七校でミルク給食が開始された。

二中でも、三十八年七月よりミルクと全乳の混合（委託乳の脱脂）でミルク給食が始まり、四十一年には全乳に、そして五十二年に完全給食が導入され、今日に至っている。

昭和三十八年ミルク給食開始当時の給食費 徴収額（一カ月） 百十五円（内協力費三十円）

ミルク（一本） 五円五十一銭

（PTA会報）93号 平成元年12月

この導入に対し、生徒会でも四十一年度に正式に給食委員会を発足させた。牛乳運び、クラスへの分配、飲みかけや空きビンの整理、牛乳置場の整頓など円滑な運営や改善に努力している。

初めは牛乳がまずくて不満が多かった。そして四十一年九月にやっと全乳になった。次はパンがまずいという。さらに一番の問題は飲み残しの多い事でなかなか妙案がなく苦勞したようである。

生徒会、自治委員会の発足

二中の生徒会は前述のように、昭和二十四年四月に会則を制定した。

その当時の規約は残っていないので目的や活動のための機関の具体的な姿は明らかでないが、二十九年度の資料によれば、集会委員、図書委員、保健委員、（新聞委員？）など、その他に週番連絡会などもあって活動していたようである。

そして、三十一年頃は生徒委員会の中に風紀、美化、集会放送、保健衛生、図書、新聞の各委員会があった（「学校経営要覧」31年度版）。

昭和三十四年の「市川市立第二中学校生徒会規約」はいま残る最も古いもので、目的と第一条、第十五条の簡単なもの。生徒会の目的や機関は次のようになっている（「学校経営要覧」34年度版）。

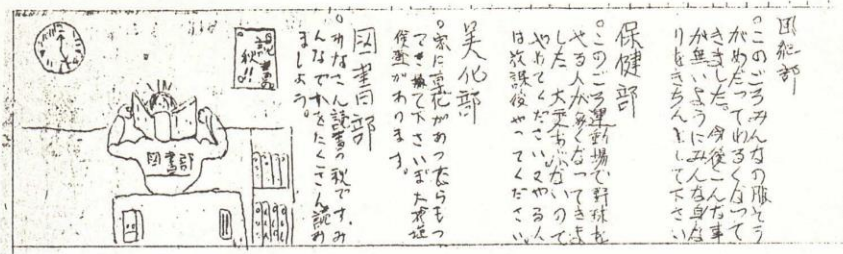
目的

- 1、自主的民主的な政治の下に於ける集団生活の様式に熟達させる。
- 2、生徒会は自主的民主的なものであるが、それは学校教育の目的の範囲内のものである。
- 3、生徒の共同福祉のための協力機関である。
- 4、学校及び社会における中心人物を養成する。
- 5、生徒相互を知り理解する機会を与える。

また、活動を支える機関は、生徒総会、生徒委員会、学年生徒会、学級生徒会、選挙管理委員会、生徒委員会の中に風紀、美化、集会放送、保健衛生、図書、新聞の各委員会があり活動に当たった。

昭和三十六年の「市川市立第二中学校生徒会規約」は第一章～十章、全四十一条の本格的なものである。この間に規約の大幅な改訂があったようである（「学校経営要覧」36年度版）。

この規約では、第一章総則第二条で目的を



「学級新聞」 1年9組 7班ニュース



「この会は会員相互の個性を伸ばしその親睦をはかると共に自治活動に力を尽くし本校の発展を計ることを目的として活動する」としている。

機関は、生徒総会、生徒委員会、自治委員会、学年生徒会、学級生徒会、部落委員会、選挙管理委員会、会計監査委員会。

この時、規約のなかに初めて自治活動が明記され、生徒全体の事項を審議する代議機関である生徒委員会と執行機関としての自治委員会が別になり、また、クラブも生徒会の中に位置づけられた。自治委員会については次のように職務の細則まで具体的に規定されている。

第六章 自治委員会

第二十一条 本会は、執行機関としてつぎの七つの自治委員会を置く

- 1、文化委員會
2、美化委員會
3、風紀委員會
4、圖書委員會
5、新聞委員會
6、集會放送委員會
7、保健體育委員會

第二十二條 自治委員は顧問教師の指導により左の職務を行ふ（左記略）

その後、生徒会自治委員会は学校活動の動きに従い追加されたり、名称が変更されたりし、次のような変遷をたどっている。

昭和31年	文化	美化委員会	風紀 〃	図書 〃	新聞 〃	集会放送 〃
36年	文化	美化	風紀	図書	新聞	集会放送
38年	文化	整美	風紀	図書	新聞	集会放送
41年	文化	整美	風紀	図書	新聞	集会放送
49年	文化	整美	風紀	図書	新聞	放送(45)
51年	文化	整美	風紀	図書	新聞	放送
平成5年	文化	整美	生活	図書	新聞	放送

保健衛生 //

保健体育

保体

保健体育

保健

保健

保健

(給食)

給食

給食

給食

給食

ベルマーク(40)ベルマークベルマーク

購買

購買

なお、クラブについては次の様に規定されている。

第五章 クラブ

第十八条 生徒会は目的達成のため友誼団体として各種クラブを置く。

第二十条 必要に応じてクラブが代表者を生徒会に送り出すことができる。

この時のクラブは次のようなものである。

体育部——ダンスク、ソフトク、籠球ク、排球ク、野球ク、陸上競技ク、体操ク、卓球ク、バドミ

ントンク、応援ク

文化部——工作ク、家庭ク、ブラスバンドク、音楽ク、図工ク、英語ク、演劇ク、

書道ク、化学ク、生物ク、園芸ク、写真ク、電気ク、文芸ク、気象ク、華道ク

スポーツ (主な活躍)

昭和三十四年、市内陸上競技大会 男子優勝

三十五年、市内バスケット女子優勝、男子準優勝

三十六年、市内駅伝 第一位

三十八年、市民バレーボール（春季）男子優勝、女子準優勝

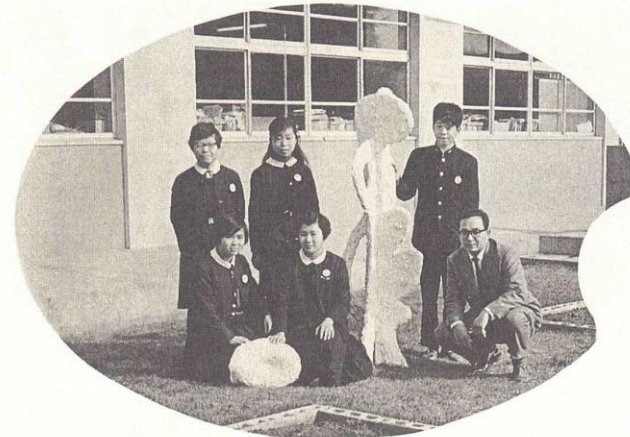
市内卓球 男子団体優勝

三十九年、市内総合卓球男女共団体優勝

昭和36年（岩戸景気の終焉と景気後退は懸念）

米ソ冷戦強まる
東ドイツに「ベルリンの壁」が構築された。

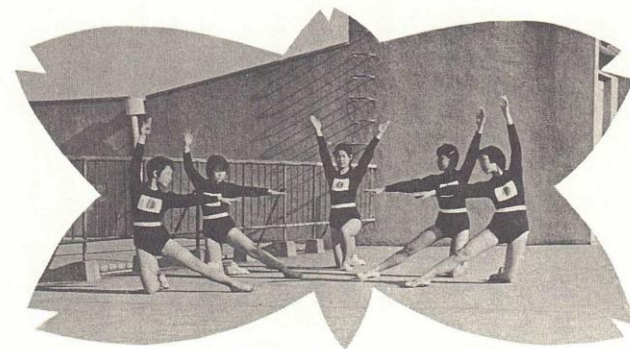
☆国内空路にジェット機登場
☆ソ連宇宙船ウォーストーク1号（ガガーリン搭乗）地球一周飛行



美術クラブ（昭和30年代）



運動会（昭和32年）



ダンスクラブ（昭和30年代）

昭和37年（わが国も先進国意識に）

経済の動き

工業生産は、この年アメリカ、ソ連、イギリス、西ドイツに次いで第5位の規模になり、いよいよ先進国化という意識が芽生えた

☆国鉄常磐線三河島駅で衝突大事故

☆堀江謙一がヨットで太平洋単独横断に成功

☆戦後初の国産飛行機YS-11が初飛行

☆テレビの受信契約者が一、〇〇〇万人突破



弥生時代の復原家屋

英語コンテスト

八期生として入学し、小学校になかった科目として英語に興味を持ち、当時、寺島利雄先生が顧問をされていた英語クラブに入った。一学期の中ごろ、市川・船橋地区の英語コンテストがあるので代表を派遣するというので、各学年から演説一人と会話二人を決めることになった。全学年について英語クラブの部員がいるというわけではなかったため、結局一年生で三人、二年生、三年生で一人ずつということになったと思う。演説は各学年とも男子生徒で、一年生の会話が男子・女子一人ずつであった。私はその会話の男子生徒として選ばれたが、あとでわかったことであるが、英語が上手だったからではなく、人前で語尾まで大きな声で話せるから選んだというだけのことだったようである。それから毎日のように先生の特訓があった。相手の女子生徒（Aさん）は授業で先生の受持ちであって、ヒ

アリングと発音に厳しい先生が、特にAさんということではなく全員に授業中に教えていたが、私は課外活動の時のみ教えて戴いた。放課後、会話の練習中、私の発音がまずくて一人で何度もやりなおしをさせられ、Aさんの前で毎日、恥ずかしい思いをした。昼休みにも時々、宿直室で、当時貴重品であったリンガフォンのレコードを聴かせてもらった（というか、聴かされた）。その甲斐あってか、市川・船橋地区のコンテストでは優勝し、会話なのに賞品は一人分しかないとのこと、Aさんと分けあった。先生の指導のおかげで、ほかの演説の生徒も全員優勝した。次の年は、全学年について、英語クラブ以外からも選ぶということでは志誰でも参加できるという校内コンテストが行われるようになった。私たちが三年生のときには受験準備もあって、どういったことになったか覚えていない。

（八期 松村恒夫）

須和田公園と郭沫若

二中の西側に隣接する須和田公園は学校生活と共に忘れ難い場所となっている人も多いであろう。公園が開設される以前からあった忠霊塔とその周辺は、二中生徒の格好の遊び場となっていた。昭和三十年頃までは、忠霊塔周辺と二中の敷地とははっきりした境界がなかったからであろう。

忠霊塔は第二次大戦中の十八年に市内の戦没者の霊を祀るという趣旨で建立されたが、戦後は荒れにまかせていた。しかし、周辺一帯は眺望に恵まれた高台で、市民の憩いの場として最適であるこ



忠 霊 塔 (昭和32年)

昭和38年（オリンピック景気）
8月米英ソが部分的核実験停止条約に調印。日本は56番目の参加国として調印
11月テキサス州ダラスでケネディ大統領暗殺。初めての日米宇宙中継で報道
☆名神高速道路の尼崎～栗東間開通
☆自動販売機の登場
☆黒四ダムの完成
☆ボーリングブーム本格化



「和平」の碑



郭沫若氏のレリーフ

とから再開発された。これが現在の須和田公園で、面積一・三ヘクタール、三十一年十月に開園。このとき忠霊塔も整備されて元の姿を取り戻し、国府台から忠魂碑も移設された。園内には桜をはじめ種々の樹木が植えられ、四季折々の自然を楽しむことができるようになった。二中の正門に至る坂道や公園入口周辺が整備され、桜や銀杏が植えられたのもその頃である。
さて、公園には四十三年に造られた弥生時代の復元家屋が一棟あり、中国樂山市との友好都市締結十五周年を記念して、最近建てられた石碑「和平」、そして郭沫若氏の「別須和田」の詩碑がある。三十年十二月、中国学術文化視察団の団長として訪日した折、郭沫若氏がかつて日本に亡命生活を送っていた須和田の旧居を久しぶりに訪れた際の感慨を、格調高く詠った長詩である。碑は直筆による漢文で、四十二年四月に完成した。次に書き下ろし文の一節を紹介する。

さらば須和田よ（五言詩）

昔と今と 草木の色は変わりけるも

人の情には 変りなきもの

我 すぎし年の寓居を訪ねゆけば

近隣の人 あげて歓び迎えたり

（以下略）

戦後十年の世情

昭和三十年代の唯一の校内文芸誌『玉藻』八号は三十年三月に発刊された。その中には三十年代初期の世情を物語る記事があるので紹介する。

足くせと下駄箱の歴史

今年（昭和二十九年度）になって先生方の中で、「二中の生徒の躰はどうなんだろうか」という事が話題になった。どこか家庭でも家の中の躰方について親同士或いは親子で「我が家の躰は如何にすべきや」なんてしよっちゃう話し合ってはいられない。むしろそんな風に正面を切られると至極都合の悪いことが多い。学校の躰方を云々する時、それと似通ったことが我々（教師）に考えられる。触る必要性は充分わかっていながら触りたくない所で、そこに盲点がある。
学級担任の先生から買ったばかりの新しい下駄や上履きが下駄箱に入れておくとなくなるといふ報告があ

米・百俵

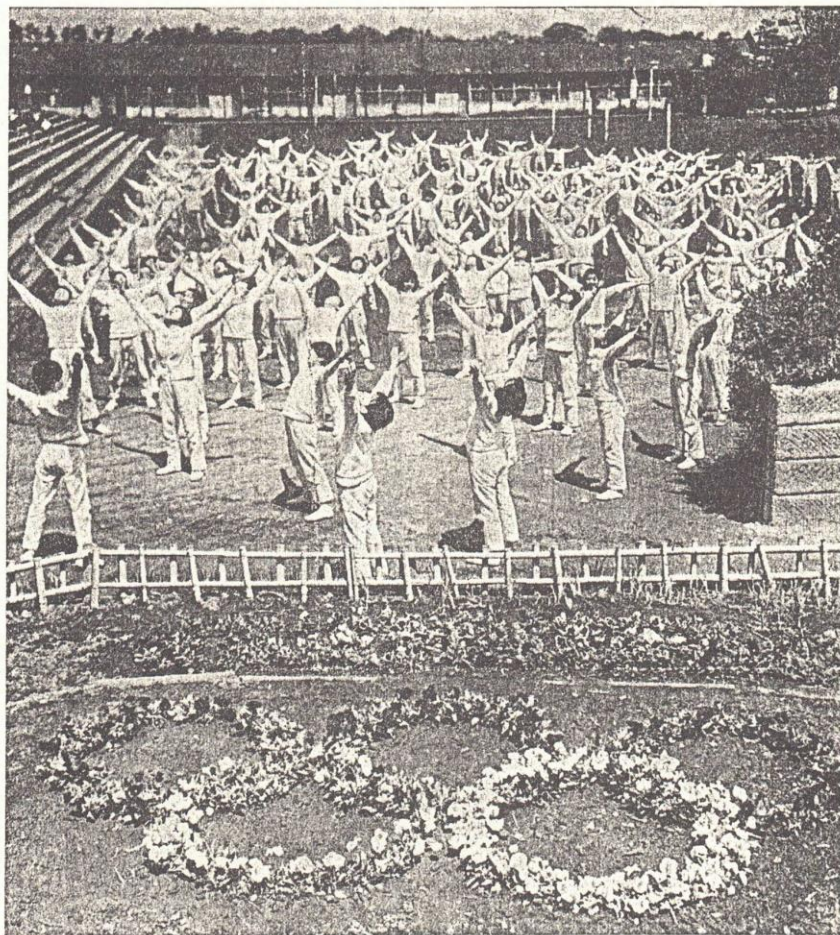
『玉藻』四号から「ストーブ談義」というエッセイを連載していたある先生は、八号で時の移り行くさまを次のように記している。

初めの「ストーブ談義」で描いた『二中の夢』の一部分「忠霊塔を図書館にする夢」も四年の歳月の間に忠霊殿となり須和田小公園となって来た。それにつけても元PTA会長西谷氏がよく引用した「米・百俵」（山本有三作）の話になぞらえ、この須和田が丘に「米・百俵」の市財政が投げ入れられる時が楽しみである。

「米・百俵」について補足すると、昭和十八年に「主婦之友」に発表された戯曲で、山本有三は、国民に向かって非常にこそ将来の国民の教育を考えねばなら

ないと訴えたのである。そのあら筋は以下の通りである。

「官軍に背き禄高を三分の一に減らされ、戦災と相まっ



日本の四季

高き思想で五輪をつなぐ

五輪の精神は、平和、親善、国際理解、スポーツの発展、そして人間の健康と幸福の向上にある。この精神を、日本の四季を通じて表現しよう。春は希望、夏は情熱、秋は収穫、冬は静寂。四季を通じて、五輪の精神を体現しよう。

Ⅲ 昭和三十一年

昭和39年（経済開放下のオリンピックの開催）
ベトナム戦争はじまる
8月4日、米国防省は米艦艇が北ベトナム魚雷艇に攻撃されたと発表（トンキン湾事件）。米機は北ベトナム海軍基地を報復爆撃して、米軍のベトナム介入が公然化した。
東京オリンピック開催
10月10日から東京オリンピック開催、参加国94カ国、選手は五、五四一人。日本は金メダル16個を獲得、オリンピック開催に合わせて、新幹線、地下鉄、高速道路等の交通網、ホテルや商業施設が整備され、東京が生まれ変わる。
☆新潟大地震で石油タンク300時間炎上
☆東京都内で自動車10万台到達
☆東京サバク：深刻な水不足
☆東海道新幹線開業
☆インスタントラーメン発売
☆国民宿舎の登場。宿泊券はレジャーが一般に浸透。昭和36年、スキー客100万人の突破、登山者22万人などレジャーブームになる。

五輪花壇

て、長岡藩は窮乏のどん底に陥り、藩士の家族はお粥さえすれない状態のうえに人員整理までしなければならなかった。そして小林虎三郎は殿様と家中から懸望されて重職についた。その時、三根山藩から長岡の侍達に米百俵が送られた。
虎三郎はその米を一粒も分けず、それをもとにしてあらゆる反対を押し退け、学校を建てると言い出した。

明治三年六月に粗末な学校を建てた。これが国漢学校であり、それに洋学局、医学局が設けられ、後に坂の上小学校となり、長岡中学、長岡病院となった。
特に国漢学校には、藩士の子弟だけではなく、百姓や町人の子供も入学させたことは、設立者の進歩的な考え方を反映し、初期の目的を達した。」なお、虎三郎以外の藩士は実在の人物ではない。

第十八回オリンピックは東京で昭和三十九（一九六四）年十月十日から十五日間行われた。戦後復興を遂げた日本が初めて催した世界的イベントであった。この開会式の日を記念して十月十日は国民の祝日、体育の日となった。
オリンピックを一年後にひかえ、昭和三十八年四月二十八日付、サンケイ新聞（PR版）に「うつくしい五輪花壇の前で、元氣よく千葉県体操をする市川市立第二中学校の生徒たち」が紙面一杯に掲載された。

「五輪のマークを型どった花壇が市川市養護学校の校庭にでき上がった。同校の生徒が、園芸研究家江尻光一氏の指導で、熱心にこしらえたもの。輪の直径は八十センチ、左から青、黄、紫、白、赤のパンジーが、それぞれ約三十株ずつ植えられている。（略）
養護学校はグラウンドを接して、市立第二中学校と隣り合っている。花壇のすぐ前の広場で、声をあげて体操する生徒たち——その顔に光る汗が若い日本を象徴しているかのようにだった」と紹介されている。